令和５年度

柔道整復スポーツ科学科

３年

シラバス

学校法人　健生学園
東日本医療専門学校

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	運動器の構造と機能Ⅱ			授業形態	講義	教員名	藤本　敏彦		
科目区分	専門基礎分野	単位数	2　単位	時間数	36 時間	期間	半期	18 回	対象学年	3 年生

授業概要	運動学では運動生理学、運動力学、解剖学の知識を基礎として、筋の動作作用や姿勢の維持作用、歩行などへの関与を学習する。本授業では教員・学生双方の向上心が基板となるため、双方の予習が必修となる。また授業への参加を促すため授業時の発表回数を評価基準に加える。
授業の到達目標	筋力の発生に関して説明ができる。筋の動作作用が説明できる。身体運動の神経メカニズムが説明できる。
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 運動学の目的 運動の表し方 第2週目 身体運動と力学 第3週目 身体運動と力学 第4週目 身体運動と力学 第5週目 運動器の構造と機能 第6週目 運動器の構造と機能 第7週目 神経の構造と機能 第8週目 神経の構造と機能 第9週目 運動感覚 第10週目 反射と随意運動 第11週目 反射と随意運動 第12週目 四肢と体幹の運動 第13週目 四肢と体幹の運動 第14週目 四肢と体幹の運動 第15週目 四肢と体幹の運動 第16週目 四肢と体幹の運動 第17週目 期末試験 第18週目 試験解説 （授業の方法および自学学習について） 授業資料を教員が準備し、受講生に配布してプロジェクタを使いながら講義を行う。また受講生の授業への積極的参加を促すため発表回数を評価基準に加える。そのため受講生は配付資料を用いて予習(分からないところを調べるなど)が義務つけられ、かつ評価対象になる。
教科書・参考書等	全国柔道整復学校協会　運動学
成績評価の方法	定期試験　90%、授業中の発表回数　10%、予習の忘れは減点　1回5点、病欠・公欠・忌引き以外の欠席1回5点減点、授業時の居眠り、雑談等は教員の判断で減点。
実践的教育に関する経歴等	東北大学高度教養教育学生支援機構および医学系研究科運動学講座にて運動学などの講義経験。中学・高校保健体育専修免許

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	運動器の構造と機能Ⅲ				授業形態	講義	教員名	藤本　敏彦　・　津田　新吾		
科目区分	専門基礎分野	単位数	2　単位	時間数	36 時間	期間	半期	18 回	対象学年	3 年生
授業概要	運動学では「運動器の構造と機能Ⅱ」の知識を基礎として、筋の動作作用や姿勢の維持作用、歩行などへの関与を学習する。また単に理解するのではなく、柔整やスポーツの現場で治療やトレーニング、リハビリテーションに応用できるまでの知識に発展させることを目的とする。本授業では教員・学生双方の向上心が基板となるため、双方の予習が必修となる。また授業への参加を促すため授業時の発表回数を評価基準に加える。									
授業の到達目標	筋力の発生に関して説明ができる。筋の動作作用が説明できる。身体運動の神経メカニズムが説明できる。姿勢の維持、歩行のメカニズムが説明できる。成長や老化と運動能力の関係が説明できる。以上の内容と治療、リハビリ、トレーニングの関係性について説明できる。									
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 四肢と体幹の運動 第2週目 四肢と体幹の運動 第3週目 四肢と体幹の運動 第4週目 四肢と体幹の運動 第5週目 姿勢 第6週目 姿勢 第7週目 歩行 第8週目 歩行 第9週目 運動発達 第10週目 運動学習 第11週目 運動器の構造と機能1 第12週目 運動器の構造と機能2 第13週目 運動器の構造と機能3 第14週目 運動器の構造と機能4 第15週目 運動器の構造と機能5 第16週目 運動器の構造と機能6 第17週目 期末試験 第18週目 試験解説 （授業の方法および自学学習について） 授業資料を教員が準備し、受講生に配布してプロジェクタを使いながら講義を行う。また受講生の授業への積極的参加を促すため発表回数を評価基準に加える。そのため受講生は配付資料を用いて予習(分からないところを調べるなど)が義務つけられ、かつ評価対象になる。 津田の担当部分　　毎回の講義後に 自主課題を提供する。									
教科書・参考書等	参考書：（社）全国柔道整復学校協会監修『運動学（改訂第3版）』医歯薬出版株式会社									
成績評価の方法	【藤本敏彦】 定期試験　90%、授業中の発表回数　10%、予習の忘れは減点　1回5点、病欠・公欠・忌引き以外の欠席1回5点減点、授業時の居眠り、雑談等は教員の判断で減点。 【津田新吾】 期末試験　100%									
実践的教育に関する経歴等	【藤本敏彦】東北大学高度教養教育学生支援機構および医学系研究科運動学講座にて運動学などの講義経験。中学・高校保健体育専修免許 【津田新吾】柔道整復師専科教員資格									

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復術の適応				授業形態	講義	教員名	石川 陽二郎		
科目区分	専門基礎科目	単位数	2　単位	時間数	36 時間	期間	半期	18 回	対象学年	3 年生
授業概要	接骨院を利用する患者の中には、本来、医科での診察治療が適切である疾患に罹患している場合があるため、どんな症状・徴候に留意しなければならないか、どんな場合に緊急性が高いのかなどを授業の中で学習していく。 また、医科で行う画像診断学の基礎として、各画像検査の特徴を学習する。									
授業の到達目標	1. 柔道整復術の適応とならない症状・徴候を理解する。 2. 画像診断学の基礎を理解する。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 柔道整復術の適否を考える、損傷に類似した症状を示す疾患　第19週目 第2週目 損傷に類似した症状を示す疾患、血流障害を伴う損傷　第20週目 第3週目 末梢神経損傷を伴う損傷、脱臼骨折　第21週目 第4週目 外出血を伴う損傷、病的骨折および脱臼　第22週目 第5週目 意識障害を伴う損傷　第23週目 第6週目 脊髄症状のある損傷、呼吸運動障害を伴う損傷　第24週目 第7週目 内臓損傷の合併が疑われる損傷　第25週目 第8週目 高エネルギー外傷　第26週目 第9週目 画像診断学の基礎1　第27週目 第10週目 画像診断学の基礎2　第28週目 第11週目 画像診断学の基礎3　第29週目 第12週目 画像診断学の基礎4　第30週目 第13週目 画像診断学の基礎5　第31週目 第14週目 画像診断学の基礎6　第32週目 第15週目 画像診断学の基礎7　第33週目 第16週目 問題演習　第34週目 第17週目 問題演習　第35週目 第18週目 期末試験　第36週目 (授業の方法および自学学習について) ・講義形式を主体として授業を進める。 ・授業内で追加資料等を配布する場合があるので、授業回ごとに整理しておくこと。									
教科書・参考書等	・医療の中の柔道整復(医歯薬出版)を教科書とする。 ・施術の適応と医用画像の理解(南江堂)を参考書とする。									
成績評価の方法	期末試験の結果(100%) 状況によって出欠点を成績に加味する場合がある 上記の項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	医師									

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道Ⅱ				授業形態	実技	教員名	渡邊一治		
科目区分	専門基礎分野	単位数	1　単位	時間数	36 時間	期間	半期	18 回	対象学年	3 年生
授業概要	柔道の歴史と理念を通し医療人としての人格形成を修養する。 礼法・形・受身を鍛錬し習得する。									
授業の到達目標	柔道理念の更なる理解 礼法、投の形（手技・腰技・足技）の習得									
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目　認定実技審査について 第2週目　礼法（拝礼と敬礼）・受け身・投の形 第3週目　礼法・受け身・手技① 第4週目　礼法・受け身・腰技① 第5週目　礼法・受け身・足技① 第6週目　礼法・受け身・手技② 第7週目　礼法・受け身・腰技② 第8週目　礼法・受け身・足技② 第9週目　実技中間試験 第10週目　礼法・受け身・手技③ 第11週目　礼法・受け身・腰技③ 第12週目　礼法・受け身・足技③ 第13週目　礼法・受け身・手技④・約束乱取 第14週目　礼法・受け身・腰技④・約束乱取 第15週目　礼法・受け身・足技④・約束乱取 第16週目　実技試験 第17週目　期末試験 第18週目　期末試験　解説と解答 （授業の方法および自学学習について） 1）柔道場にて実技の授業となる。柔道衣・装飾類に留意すること。 2）個々の技能、能力により相助相譲し共同の目的のため修練する。 3）出席状況や授業態度などを重要視する。 4）授業終了後は当日の教室当番が清掃し教室へ戻ること。 5）常時安全・衛生に留意する。									
教科書・参考書等	参考資料を適時配布する。 学校教材DVD									
成績評価の方法	授業態度、出席状況、期末試験、実技試験等で総合的に評価する。									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復専科教員、認定実技審査員（整復実技・柔道実技）									

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	関係法規				授業形態	講義	教員名	鈴木 美加		
科目区分	専門基礎分野	単位数	2　単位	時間数	36 時間	期間	半期	18 回	対象学年	3 年生

授業概要	法の意義・体系、医療倫理、また柔道整復師法とその関連内容、その他の医療従事者の資格法を学び、柔道整復師としての社会的、医療的位置づけと規範の習得を図る。その他、社会福祉・社会保険等社会保障制度の基礎を学ぶ。
授業の到達目標	1)法の意義・体系の基礎を習得し、素養を高めることができる。 2)柔道整復師の遵守すべき事項と罰則について習得し、柔道整復師としての認識を深める。 3)患者の権利および医療遂行における医療従事者の遵守すべき事項を習得し、医療人としての素養を深める。 4)社会保障制度の基礎を習得し、柔道整復師との関連性を認識できる。
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目　Ⅰ序論　法の意義・体系、患者の権利　第19週目 第2週目　Ⅰ序論　医療事故とリスクマネジメント、医療安全　第20週目 第3週目　Ⅱ柔道整復師法　第21週目 第4週目　Ⅱ柔道整復師法　第22週目 第5週目　Ⅱ柔道整復師法　第23週目 第6週目　Ⅱ柔道整復師法　第24週目 第7週目　Ⅱ柔道整復師法　第25週目 第8週目　ⅢA医療従事者の資格法　第26週目 第9週目　ⅢA医療従事者の資格法　第27週目 第10週目　ⅢA医療従事者の資格法、ⅢB医療法　第28週目 第11週目　ⅢB医療法　第29週目 第12週目　ⅢB医療法　第30週目 第13週目　社会保障制度、ⅢC社会福祉関係法規　第31週目 第14週目　ⅢC社会福祉関係法規　第32週目 第15週目　ⅢD社会保険関係法規　第33週目 第16週目　ⅢEその他の関係法規、憲法　個人情報保護法　第34週目 第17週目　期末試験　第35週目 第18週目　試験解説、国民医療費、関係法規要点　第36週目
	(授業の方法および自学学習について) ・資料を配布し、資料に基づいて授業を行うことを基本とする。 ・特に重要な、Ⅱ柔道整復師法については、前週の復習から授業を行う。 ・単元ごとに問題を配布する。各自必ず行い、間違えたところは復習しておくこと。 ・授業中の携帯電話の使用(録音、録画等含む)、SNS等への投稿を認めない。 ・授業中の水分補給は認めない。休憩時間に行うこと。
教科書・参考書等	(社)全国柔道整復学校協会　監修『関係法規　2023年版』 南江堂
成績評価の方法	期末試験の成績 上記の項目が60点以上の場合に単位を認定する。 ただし、授業に臨む態度が好ましくない場合は減点とする場合もある。
実践的教育に関する経歴等	クリニック・整骨院勤務

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	社会保障制度と療養費			授業形態	講義	教員名	鈴木 美加		
科目区分	専門基礎分野	単位数	1　単位	時間数	18 時間	期間	半期	9 回	対象学年	3 年生

授業概要	社会保障制度の基本を学び、中でも医療保険制度や柔道整復師業務における療養費制度の概要について、また、医療経済の現状に関する知識を深める。職業倫理では医療従事者の職業倫理、柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応、社会的責任と対応等を学習する。
授業の到達目標	1）わが国の社会保障制度を理解し、医療経済の現状から課題を探ることができる。 2）柔道整復師業務における療養費について理解し、適正な取り扱いを知ることができる。 3）職業倫理について理解し、柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応を習得する。
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 1わが国の社会保障　第19週目 第2週目 1わが国の社会保障　第20週目 第3週目 1わが国の社会保障　第21週目 第4週目 2柔道整復師業務における療養費　第22週目 第5週目 2柔道整復師業務における療養費　第23週目 第6週目 3職業倫理　第24週目 第7週目 3職業倫理、グループワーク　第25週目 第8週目 期末試験　第26週目 第9週目 試験解説　第27週目 第10週目　第28週目 第11週目　第29週目 第12週目　第30週目 第13週目　第31週目 第14週目　第32週目 第15週目　第33週目 第16週目　第34週目 第17週目　第35週目 第18週目　第36週目
	（授業の方法および自学学習について） ・資料と教科書とを併用し授業を行うことを基本とする。 ・グループ・ディスカッションを行い、日常の施術等においての対応について話し合い、自分たちの解決策を導き出す。 ・授業中の携帯電話の使用（録音、録画等含む）、SNS等への投稿を認めない。 ・授業中の水分補給は認めない。休憩時間に行うこと。
教科書・参考書等	・社会保障制度と柔道整復師の職業倫理（医歯薬出版）を教科書とする。
成績評価の方法	①グループワークにおける発表（20%） ②期末試験の成績（80%） グループワークを欠席した場合は、都度-5点とする。 また、授業に臨む態度が好ましくない場合は減点とする場合もある。 上記の項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する。
実践的教育に関する経歴等	クリニック・整骨院勤務 柔道整復師専科教員資格

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	運動器の評価とリハビリテーション				授業形態	講義	教員名	菅野貴宏		
科目区分	専門基礎分野	単位数	1　単位	時間数	18 時間	期間	半期	9 回	対象学年	3 年生

授業概要	運動器疾患に関連した種々の評価とリハビリテーションの概要を学習する。 また、高齢者に多い疾患とそのリハビリテーションについて学習する。
授業の到達目標	・種々の評価法の概要を理解する。 ・種々のリハビリテーションの概要を理解する。
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 運動機能と種々の評価法1 第2週目 運動機能と種々の評価法2 第3週目 高齢者リハビリテーション概説1 第4週目 高齢者リハビリテーション概説2 第5週目 高齢者リハビリテーション概説3 第6週目 高齢者リハビリテーション実際1 第7週目 高齢者リハビリテーション実際2 第8週目 高齢者リハビリテーション実際3 第9週目 期末試験、解説 （授業の方法および自学学習について） ・配布資料をもとに授業を進めるが、GoogleClassroomから資料配布などを補助的に行う。 ・まとめプリントや問題演習を配布するので、それを使い要点をしっかりと復習しておくこと。 ・2年次に履修したリハビリテーション医学の内容を復習しておくことが望ましい。 ・授業を欠課した場合は1回ごとに5点を最終成績から減点とする。
教科書・参考書等	解剖学改訂第2版(医歯薬)、リハビリテーション医学改訂第4版(南江堂) 上記のものを参考書として使用するので、必要に応じて持参すること。
成績評価の方法	1：期末試験（100%） 2：欠課による減点 上記の項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する。
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復臨床論Ⅰ				授業形態	講義	教員名	古小高 朗浩　草刈 直貴		
科目区分	専門分野	単位数	4　単位	時間数	72 時間	期間	通年	36 回	対象学年	3 年生

授業概要	日常来院する患者は業務範囲内の患者のみとは限らず、これらの患者も正しく転医推奨しなければならない。また、患者の身体的特徴を理解するためには先天的な要因あるいは加齢によって生じうる形態的変化を学ばなければならない。本講義では柔道整復学（各種外傷）と疾病との相違点を学び、臨床家としての高い技術の習得を目指す。
授業の到達目標	・医科適応疾患との鑑別をもとに、医接連携の適否を判断できる。 ・臨床現場で遭遇するであろう先天的あるいは加齢による形態的変化について説明ができる。
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目　医接連携の適否（医科適応疾患との鑑別①） 第2週目　医接連携の適否（医科適応疾患との鑑別②） 第3週目　医接連携の適否（医科適応疾患との鑑別③） 第4週目　医接連携の適否（医科適応疾患との鑑別④） 第5週目　医接連携の適否（医科適応疾患との鑑別⑤） 第6週目　医接連携の適否（医科適応疾患との鑑別⑥） 第7週目　医接連携の適否（医科適応疾患との鑑別⑦） 第8週目　医接連携の適否（医科適応疾患との鑑別⑧） 第9週目　医接連携の適否（医科適応疾患との鑑別⑨） 第10週目　医接連携の適否（医科適応疾患との鑑別⑩） 第11週目　医接連携の適否（医科適応疾患との鑑別⑪） 第12週目　医接連携の適否（医科適応疾患との鑑別⑫） 第13週目　医接連携の適否（医科適応疾患との鑑別⑬） 第14週目　医接連携の適否（医科適応疾患との鑑別⑭） 第15週目　医接連携の適否（医科適応疾患との鑑別⑮） 第16週目　前期総復習 第17週目　前期試験 第18週目　前期試験返却、解説 第19週目　上肢・下肢骨折と整形外科疾患の鑑別① 第20週目　上肢・下肢骨折と整形外科疾患の鑑別② 第21週目　上肢・下肢骨折と整形外科疾患の鑑別③ 第22週目　上肢・下肢骨折と整形外科疾患の鑑別④ 第23週目　上肢・下肢骨折と整形外科疾患の鑑別⑤ 第24週目　上肢・下肢骨折と整形外科疾患の鑑別⑥ 第25週目　手指骨折と整形外科疾患の鑑別① 第26週目　上肢・下肢骨折と整形外科疾患の鑑別⑦ 第27週目　上肢・下肢骨折と整形外科疾患の鑑別⑧ 第28週目　脊椎骨折と整形外科疾患の鑑別① 第29週目　小テスト 第30週目　脊椎骨折と整形外科疾患の鑑別② 第31週目　脊椎骨折と整形外科疾患の鑑別③ 第32週目　脊椎骨折と整形外科疾患の鑑別④ 第33週目　脊椎骨折と整形外科疾患の鑑別⑤ 第34週目　後期総復習 第35週目　後期試験 第36週目　後期試験返却、解説 （授業の方法および自学学習について） ・講義は黒板への板書を中心に進めていく。また、各色のチョークを頻繁に使用し板書するため、それに対応したペンを準備することが望ましい。
教科書・参考書等	（前期）：初回の授業で配布するプリントを毎授業で準備すること。
成績評価の方法	（前期）　◆小テストの成績および期末試験成績（100%）を100点法によって評価し、60点以上を合格とする。 ・小テストは60点未満を不合格とし、その場合、期末試験成績より2点を減点する。 （後期）　◆小テスト（30点満点）及び期末試験（70点満点）の合計が60点以上の場合、合格とする。 ※前期の成績に関わらず、後期成績が60点に満たない者は再試験の対象とする。 ＊前期、後期それぞれ60点以上の場合のみ単位修得を認める。
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格（古小高、草刈）

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復臨床論Ⅱ				授業形態	講義	教員名	半澤優　菅野貴宏		
科目区分	専門分野	単位数	4　単位	時間数	72 時間	期間	通年	36 回	対象学年	3 年生

授業概要	患者さんの診察を行っていく上で、様々な疾病の病態を理解し、鑑別に必要な知識として医科適応疾患の徴候などを理解することが肝要となる。この授業では、適切に判断する上で必要な知識を整理し、接骨院と医科で行う治療の特徴や差異を学習していく。
授業の到達目標	疾病について理解を深め、代表的な徴候や鑑別点について説明することができる。 接骨院と医科的治療の差異を理解する。
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 医科適応疾患との鑑別（一般外傷） 第2週目 医科適応疾患との鑑別（炎症性疾患） 第3週目 医科適応疾患の知識の整理1 第4週目 医科適応疾患の知識の整理2 第5週目 医科適応疾患の知識の整理3 第6週目 医科適応疾患の知識の整理4 第7週目 医科適応疾患の知識の整理5 第8週目 医科適応疾患の知識の整理6 第9週目 胸部外傷の急性期対応について 第10週目 医科適応疾患との鑑別（頭頸部の疾患） 第11週目 医科適応疾患との鑑別（頭頸部の疾患） 第12週目 医科適応疾患との鑑別（胸部の疾患） 第13週目 医科適応疾患との鑑別（腹部の疾患） 第14週目 前期試験範囲まとめ 第15週目 前期期末試験 第16週目 臨床的症状の基礎知識1 第17週目 臨床的症状の基礎知識2 第18週目 臨床的症状の基礎知識3 第19週目 疾病の発生に関する概念1 第20週目 疾病の発生に関する概念2 第21週目 疾病の発生に関する概念3 第22週目 疾病と症候への理解1 第23週目 疾病と症候への理解2 第24週目 疾病と症候への理解3 第25週目 疾病と症候への理解4 第26週目 疾病と症候への理解5 第27週目 疾病と症候への理解6 第28週目 疾病と症候への理解7 第29週目 疾病と症候への理解8 第30週目 疾病と症候への理解9 第31週目 疾病と症候への理解10 第32週目 骨損傷への理解1 第33週目 骨損傷への理解2 第34週目 骨損傷への理解3 第35週目 骨損傷への理解4 第36週目 期末試験、試験解説 （授業の方法および自学学習について） 【前期】 例題を用いて説明、理解、考察を促しながら進行する。 【後期】 配布資料を使いながら講義形式で進行する。 GoogleClassroomから参考資料等を配信する。
教科書・参考書等	参考書　：（社）全国柔道整復学校協会監修『外科学概論（改訂第4版）』 南江堂 後期は以下の図書を参考書とするが、授業への持参は任意とする。 柔道整復学・理論編改訂第6版、生理学改訂第4版（以上、南江堂）、病理学概論第3版（医歯薬）
成績評価の方法	【前期】 ①期末試験（100%） 【後期】 ①期末試験（100%） ※通年で120/200点以上取得した場合、単位を認定する。
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格（半澤） 柔道整復師専科教員資格（菅野）

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復学総合演習				授業形態	講義	教員名	鈴木 美加　草刈 直貴		
科目区分	専門分野	単位数	4　単位	時間数	72 時間	期間	通年	36 回	対象学年	3 年生

授業概要	これまで学んできた柔道整復学の総論および身体各部位における軟部組織の損傷を総合的に見直し、各種外傷との関連性・鑑別点を再確認する。
授業の到達目標	・臨床上重要な骨折・脱臼の症状および軟部組織損傷の特徴を説明できる。 ・身体各部位における様々な軟部組織損傷の特徴・鑑別点を説明できる。
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 頸部の軟部組織損傷 第2週目 肩関節部の軟部組織損傷 第3週目 肩関節部、肘関節部の軟部組織損傷 第4週目 肘関節部、前腕部の軟部組織損傷 第5週目 前腕部の軟部組織損傷 第6週目 手関節部の軟部組織損傷 第7週目 手部、指部の軟部組織損傷 第8週目 手部、指部の軟部組織損傷 第9週目 股関節部の軟部組織損傷 第10週目 大腿部の軟部組織損傷 第11週目 膝関節部の軟部組織損傷 第12週目 膝関節部の軟部組織損傷 第13週目 膝関節部、下腿部の軟部組織損傷 第14週目 下腿部、足関節部の軟部組織損傷 第15週目 足関節部、足根部の軟部組織損傷 第16週目 前期期末テスト対策 第17週目 前期期末テスト 第18週目 前期期末テスト解説・総復習 第19週目 4-1骨の損傷　A骨の形態と機能 第20週目 B骨損傷の概説、C骨折の分類 第21週目 C骨折の分類 第22週目 D骨折の症状 第23週目 E骨折の合併症 第24週目 E骨折の合併症 第25週目 F小児骨折、高齢者骨折 第26週目 G骨折の骨癒合日数、H治癒経過、I予後、J治癒に影響を与える因子 第27週目 4-2関節の損傷（捻挫、脱臼）A関節の構造と機能～F関節構成組織損傷 第28週目 G脱臼 第29週目 4-3筋損傷、4-4腱損傷、4-5末梢神経損傷 第30週目 5診察、6治療法6-1整復法 第31週目 6-1整復法、6-2固定法 第32週目 6-2固定法、6-3後療法 第33週目 6-3後療法 第34週目 6-4指導管理 第35週目 後期期末試験 第36週目 試験解答解説、問題演習 （授業の方法および注意点） 前期：資料に沿って授業を進行し、第1週～第15週まで小テストを実施する。 小テスト及び期末テストは、講義の進行状況により日程、内容を変更する場合がある。 後期：資料を配布し、資料に基づいて授業を行うことを基本とする。授業の最後に問題を配布するので各自実施すること。 ・授業中の携帯電話の使用（録音、録画等含む）、SNS等への投稿を認めない。 ・授業中の水分補給は認めない。休憩時間に行うこと。
教科書・参考書等	教科書：（社）全国柔道整復学校協会監修『柔道整復学・理論編（改訂第6版）』南江堂 教科書：（社）全国柔道整復学校協会監修『柔道整復学・実技編（改訂第2版）』南江堂
成績評価の方法	（前期） ①小テストの合計得点率の30%および②前期期末テストの得点率の70%を成績に反映。（①＋②＝前期成績） （後期） ①期末試験の成績（60点以上の場合に単位を認定する） ただし、授業に臨む態度が好ましくない場合は減点とする場合もある。 ※各半期60点以上をもって単位認定とする。
実践的教育に関する経歴等	柔道整復専科教員資格（草刈） 柔道整復師専科教員資格、クリニック・整骨院勤務（鈴木）

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復術適否の判断			授業形態	講義	教員名	半澤　優		
科目区分	専門分野	単位数	2　単位	時間数	36 時間	期間	半期	18 回	対象学年	3 年生
授業概要	医科との連携において紹介状（施術情報提供書）の作成は基本である。 本授業では、医科への紹介状（施術情報提供書）の作成方法を学ぶ。 昨今の柔道整復師には超音波画像機器やレントゲン写真等の医科画像を読影できる能力が求められている。 実技を交え、その能力を養う。								
授業の到達目標	・施術情報提供書が適切に作成でき、円滑な医科との連携体制を構築できる柔道整復師を目指す。 ・超音波画像機器を適切に使用し、読影することで日々の施術の補助として運用できる。 ・レントゲン写真等の読影が適切に行えることで医科との連携を円滑に運用できる。								
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 施術情報提供書　作成実習 第2週目 施術情報提供書　作成実習 第3週目 施術情報提供書　作成実習 第4週目 超音波画像機器実習（総論、デモ） 第5週目 超音波画像機器実習（肩部） 第6週目 超音波画像機器実習（肘部～手部） 第7週目 超音波画像機器実習（殿部～膝部） 第8週目 超音波画像機器実習（下腿部～足部） 第9週目 医科画像の観察と症例検討 第10週目 医科画像の観察と症例検討 第11週目 医科画像の観察と症例検討 第12週目 医科画像の観察と症例検討 第13週目 医科画像の観察と症例検討 第14週目 医科画像の観察と症例検討 第15週目 医科画像の観察と症例検討 第16週目 医科画像の観察と症例検討 第17週目 後期期末試験 第18週目 後期期末試験　解説 （授業の方法および自学学習について） 本講義では、超音波画像機器（エコー）を実習する。持ち物として、エコー用ジェルをふき取る ふきん を数枚程度、持参すること。 許可なく授業内容の撮影/録音/SNSへの投稿は禁止とする。 授業中の飲料摂取を許可する。								
教科書・参考書等	（社）全国柔道整復学校協会　監修『柔道整復学・理論編（改訂第6版）』 南江堂 （社）全国柔道整復学校協会　監修『柔道整復学・実技編（改訂第2版）』 南江堂 他、授業内容に応じて資料を配布する。								
成績評価の方法	期末試験　:60%（60点満点） 課題　　:30%（30点満点） 出席　　:10%（10点満点）　※1回欠席毎に1点減点 ※60/100点以上取得した場合、単位を認定する。								
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格								

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復臨床実技Ⅰ				授業形態	実技	教員名	目時　誠		
科目区分	専門分野	単位数	2　単位	時間数	72 時間	期間	通年	36 回	対象学年	3 年生
授業概要	本講義では、臨床上、柔道整復師が遭遇する機会が多い各損傷について、受傷機序や症状などを理解しながら、診察法や整復法、検査法などを学生が実技によって体験してゆくことで、立体的に学習していく。									
授業の到達目標	各傷病における病態を把握し，実技を通じて臨床症状や治療法，類似する傷病について理解を深める。									
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 鎖骨骨折　診察法・整復法・理論 第2週目 鎖骨骨折　診察法・整復法・実技1 第3週目 鎖骨骨折　診察法・整復法・実技2 第4週目 肩鎖関節上方脱臼　診察法・整復法・理論 第5週目 肩鎖関節上方脱臼　診察法・整復法・実技1 第6週目 肩鎖関節上方脱臼　診察法・整復法・実技2 第7週目 肩関節前方脱臼　診察法・整復法・理論 第8週目 肩関節前方脱臼　診察法・整復法・実技1 第9週目　肩関節前方脱臼　診察法・整復法・実技2 第10週目 肩腱板損傷　診察法・検査法・理論 第11週目 肩腱板損傷　診察法・検査法・実技1 第12週目 肩腱板損傷　診察法・検査法・実技2 第13週目 前期総合演習 第14週目 前期総合演習 第15週目 前期総合演習 第16週目 前期総合演習 第17週目 前期期末試験 第18週目 前期期末試験　解説　前期総復習 第19週目 上腕二頭筋長頭腱損傷　診察法・検査法・理論 第20週目 上腕二頭筋長頭腱損傷診察法・検査法・実技1 第21週目 上腕二頭筋長頭腱損傷診察法・検査法・実技2 第22週目 膝側副靭帯損傷　診察法・検査法・理論 第23週目 膝側副靭帯損傷診察法・検査法・実技1 第24週目 膝側副靭帯損傷診察法・検査法・実技2 第25週目 膝十字靭帯損傷　診察法・検査法・理論 第26週目 膝十字靭帯損傷　診察法・検査法・実技1 第27週目 膝十字靭帯損傷　診察法・検査法・実技2 第28週目 膝半月板損傷　診察法・検査法・理論 第29週目 膝半月板損傷診察法・検査法・実技1 第30週目 膝半月板損傷　診察法・検査法・実技2 第31週目 後期総合演習 第32週目 後期総合演習 第33週目 後期総合演習 第34週目 後期総合演習 第35週目 後期期末試験 第36週目 後期期末試験　解説　前期総復習 （授業の方法および自学学習について） 1）座学による各疾患の診察・整復または検査についての理論的解説と、 それらに基づいた実技演習を行い、各疾患について立体的に授業を進めてゆく。 2）各学生は、授業で学んだ重要点、留意点等を十分に反映させながら 自学で練習を重ねて、実技技術の向上、習得に努めること。 3）自学の一環として少数グループによる実技試験形式の演習（小テスト）も実施する									
教科書・参考書等	柔道整復学・理論編　柔道整復学・実技編　講師作成のプリント									
成績評価の方法	1）各学期で実施する期末試験の得点 2）実技小テストの得点 3）出席状況および提出課題の内容 4）実技に臨む授業姿勢・自学に取り組む姿勢 上記項目から総合的に評価し、通年成績が120点以上となった場合のみ単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	1)柔道整復専科教員免許　2）整骨院開業　3）柔道整復資格養成校専任講師　4）体育大学非常勤講師									

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復臨床実技Ⅱ				授業形態	実技	教員名	目時　誠		
科目区分	専門分野	単位数	2　単位	時間数	72 時間	期間	通年	36 回	対象学年	3 年生

授業概要	本講義では、臨床上、柔道整復師が遭遇する機会が多い各損傷について、受傷機序や症状などを理解しながら、診察法や整復法、検査法などを学生が実技によって体験してゆくことで、立体的に学習していく。
授業の到達目標	各傷病における病態を把握し，実技を通じて臨床症状や治療法，類似する傷病について理解を深める。
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 コーレス骨折　診察法・整復法・理論 第2週目 コーレス骨折　診察法・整復法・実技1 第3週目 コーレス骨折　診察法・整復法・実技2 第4週目 上腕骨外科頸外転型骨折　診察法・整復法・理論 第5週目 上腕骨外科頸外転型骨折　診察法・整復法・実技1 第6週目 上腕骨外科頸外転型骨折　診察法・整復法・実技2 第7週目 肘関節後方脱臼　診察法・整復法・理論 第8週目 肘関節後方脱臼　診察法・整復法・実技1 第9週目 肘関節後方脱臼　診察法・整復法・実技2 第10週目 肘内障　診察法・検査法・理論 第11週目 肘内障　診察法・検査法・実技1 第12週目 肘内障　診察法・検査法・実技2 第13週目 前期総合演習 第14週目 前期総合演習 第15週目 前期総合演習 第16週目 前期総合演習 第17週目 前期期末試験 第18週目 前期期末試験　解説　前期総復習 第19週目 ハムストリングス肉ばなれ　診察法・検査法・理論 第20週目 ハムストリングス肉ばなれ　診察法・検査法・実技1 第21週目 ハムストリングス肉ばなれ　診察法・検査法・実技2 第22週目 大腿四頭筋打撲　診察法・検査法・理論 第23週目 大腿四頭筋打撲　診察法・検査法・実技1 第24週目 大腿四頭筋打撲　診察法・検査法・実技2 第25週目 下腿三頭筋肉ばなれ　診察法・検査法・理論 第26週目 下腿三頭筋肉ばなれ　診察法・検査法・実技1 第27週目 下腿三頭筋肉ばなれ　診察法・検査法・実技2 第28週目 足関節外側側副靭帯損傷　診察法・検査法・理論 第29週目 足関節外側側副靭帯損傷　診察法・検査法・実技1 第30週目 足関節外側側副靭帯損傷　診察法・検査法・実技2 第31週目 後期総合演習 第32週目 後期総合演習 第33週目 後期総合演習 第34週目 後期総合演習 第35週目 後期期末試験 第36週目 後期期末試験　解説　前期総復習 （授業の方法および自学学習について） 1）座学による各疾患の診察・整復または検査についての理論的解説と、 それらに基づいた実技演習を行い、各疾患について立体的に授業を進めてゆく。 2）各学生は、授業で学んだ重要点、留意点等を十分に反映させながら 自学で練習を重ねて、実技技術の向上、習得に努めること。 3）自学の一環として少数グループによる実技試験形式の演習（小テスト）も実施する
教科書・参考書等	柔道整復学・理論編　柔道整復学・実技編　講師作成のプリント
成績評価の方法	1）各学期で実施する期末試験の得点 2）実技小テストの得点 3）出席状況および提出課題の内容 4）実技に臨む授業姿勢・自学に取り組む姿勢 上記項目から総合的に評価し、通年成績が120点以上となった場合のみ単位を認定する。
実践的教育に関する経歴等	1)柔道整復専科教員免許　2）整骨院開業　3）柔道整復資格養成校専任講師　4）体育大学非常勤講師

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復臨床実技Ⅲ				授業形態	実技	教員名	古小高　朗浩		
科目区分	専門分野	単位数	2　単位	時間数	72 時間	期間	通年	36 回	対象学年	3 年生

授業概要	これまで学習してきた柔道整復学や解剖学、運動学、包帯固定学をもとにして、理論に裏打ちされた骨折、脱臼、軟部組織の固定実技を実践する。また、認定実技審査や卒業後の外傷症例に対応できる力を養うことを目的とする。
授業の到達目標	①各骨折、脱臼、軟部組織損傷に対する固定の実技を習得する。 ②卒業後の外傷症例に対して対応できるように技能の習得を目的とする。
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 膝関節内側側副靭帯損傷（Xサポートテープ固定） 第2週目 足関節外側靭帯損傷（局所副子固定） 第3週目 足関節外側靭帯損傷（局所副子固定） 第4週目 コーレス骨折の固定 第5週目 コーレス骨折の固定 第6週目 第5中手骨頸部骨折の固定 第7週目 第5中手骨頸部骨折の固定 第8週目 肘関節後方脱臼の固定 第9週目 肘関節後方脱臼の固定 第10週目 第2指PIP関節脱臼の固定 第11週目 第2指PIP関節脱臼の固定 第12週目 肋骨骨折の固定 第13週目 肋骨骨折の固定 第14週目 鎖骨骨折の固定 第15週目 鎖骨骨折の固定 第16週目 実技試験 第17週目 実技試験 第18週目 実技試験 第19週目 上腕骨骨幹部骨折の固定 第20週目 上腕骨骨幹部骨折の固定 第21週目 下腿骨骨幹部骨折の固定 第22週目 下腿骨骨幹部骨折の固定 第23週目 肩鎖関節上方の固定 第24週目 肩鎖関節上方の固定 第25週目 肩関節前方脱臼の固定 第26週目 肩関節前方脱臼の固定 第27週目 アキレス腱断裂の固定 第28週目 アキレス腱断裂の固定 第29週目 総復習 第30週目 総復習 第31週目 総復習 第32週目 総復習 第33週目 総復習 第34週目 総復習 第35週目 後期試験 第36週目 後期試験返却、解説 （授業の方法および自学学習について） ・実技授業の際は白衣を必ず着用すること。 ・認定実技審査の日程に合わせて、後期授業日程の一部を繰り上げて前期に実施します。
教科書・参考書等	柔道整復学・理論編、柔道整復学・実技編、包帯固定学
成績評価の方法	・前期の成績評価は実技試験の成績をもって前期の成績とし、60点以上を合格とする。 ・後期の成績評価は記述試験の成績をもって後期の成績とし、60点以上を合格とする。 ＊各学期の成績は学年末に総合し、最終評定を出す。最終評定は100点法によって行い、60点以上を合格とする。
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復臨床実技Ⅳ			授業形態	講義	教員名	草刈 直貴		
科目区分	専門分野	単位数	1　単位	時間数	36 時間	期間	半期	18 回	対象学年	3 年生
授業概要	スポーツや日常生活において発生する代表的な傷害の病態や症状、治療法、予防法について学習する。									
授業の到達目標	・各傷害の病態や症状の理解を深め、適切に判断することができる。 ・各傷害の治療法や予防法を理解し、適切に判断することができる。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 傷害の発生と予防(概論)、メディカルチェック 第2週目 運動器の傷害予防1 第3週目 運動器の傷害予防2 第4週目 運動器の傷害予防3 第5週目 疾病と外傷予防1 第6週目 疾病と外傷予防2 第7週目 疾病と外傷予防3 第8週目 疾病と外傷予防4 第9週目 小テスト 第10週目 疾病と外傷予防5 第11週目 疾病と外傷予防6 第12週目 疾病と外傷予防7 第13週目 疾病と外傷予防8 第14週目 疾病と外傷予防9 第15週目 疾病と外傷予防10 第16週目 疾病と外傷予防11 第17週目 期末テスト 第18週目 期末テスト解説・総復習 (授業の方法および注意点) ・実技時は教室や実習室、柔道場を使用する。(必要に応じて動きやすい服装で参加すること) ・小テスト及び期末テストは、講義の進行状況により日程、内容を変更する場合がある。									
教科書・参考書等	教科書:(社)全国柔道整復学校協会監修『競技者の外傷予防』医歯薬出版株式会社 教科書:(社)全国柔道整復学校協会監修『柔道整復学・理論編(改訂第6版)』南江堂 教科書:(社)全国柔道整復学校協会監修『柔道整復学・実技編(改訂第2版)』南江堂									
成績評価の方法	小テスト(2回)及び期末テストの合計得点率が60%以上の場合に合格とする。 (不合格の場合は後期再テストの対象となる。)									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格									

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復臨床実技Ⅴ			授業形態	講義	教員名	菅野　貴宏		
科目区分	専門分野	単位数	1　単位	時間数	36 時間	期間	半期	18 回	対象学年	3 年生
授業概要	・高齢者の身体特性から起こりやすい損傷やその予防法を学習する。 ・下肢の損傷の症候や合併症、予後などを振り返りながら総合的理解力を高める。									
授業の到達目標	1. 高齢者に起こりやすい外傷とその予防法ついて理解する。 2. 下肢損傷について特徴的な症候や合併症、予後などを理解し、説明することができる。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 下肢の損傷1 第2週目 下肢の損傷2 第3週目 下肢の損傷3 第4週目 下肢の損傷4 第5週目 下肢の損傷5 第6週目 下肢の損傷6 第7週目 下肢の損傷7 第8週目 下肢の損傷8 第9週目 下肢の損傷9 第10週目 下肢の損傷10 第11週目 下肢の損傷11 第12週目 小テスト、解説 第13週目 下肢の損傷12 第14週目 下肢の損傷13 第15週目 高齢者の身体特性と外傷予防 第16週目 高齢者の身体特性と外傷予防 第17週目 高齢者の身体特性と外傷予防 第18週目 試験、試験解説 (授業の方法および自学学習について) ・配布資料をもとに授業を進め、一部GoogleClassroomから資料等を配布する ・実技時は白衣等の着用を必須とする(実施時に別途連絡) ・小テストを公欠事由により受験できなかった場合は、希望者に課題を課して小テストの代用とし、その提出物の出来により小テスト配点の6割を上限に評価する ・実技テストを受験できなかった場合は再試験を行わないので注意すること									
教科書・参考書等	1. 柔道整復学・理論編　改定第6版 2. 柔道整復学・実技編　改定第2版 3. 競技者の外傷予防									
成績評価の方法	1:期末試験の結果(60%) 2:小テストの結果(20%) 3:実技テストの結果(20%) 上記から最終評価が60点以上の場合を合格とする。									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格									

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	臨床実習Ⅲ			授業形態	実習	教員名	鈴木、津田		
科目区分	専門分野	単位数	1　単位	時間数	45 時間	期間	通年	30 回	対象学年	3 年生

授業概要	柔道整復師として接骨院で勤務するにあたり、基本となる知識や技能の修練を積み、これまで学習してきた内容をしっかり実践できるようにすることを主題とする。
授業の到達目標	・身体状態に関する情報を収集し、正しく評価することができる。 ・傷病予防の方法や効果を理解する。 ・傷病に対して治療方針を考察し、説明することができる。
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 評価と施術の総合的実習 第2週目 評価と施術の総合的実習 第3週目 評価と施術の総合的実習 第4週目 評価と施術の総合的実習 第5週目 評価と施術の総合的実習 第6週目 評価と施術の総合的実習 第7週目 評価と施術の総合的実習 第8週目 評価と施術の総合的実習 第9週目 評価と施術の総合的実習 第10週目 評価と施術の総合的実習 第11週目 評価と施術の総合的実習 第12週目 評価と施術の総合的実習 第13週目 評価と施術の総合的実習 第14週目 評価と施術の総合的実習 第15週目 評価と施術の総合的実習 第16週目 評価と施術の総合的実習 第17週目 評価と施術の総合的実習 第18週目 評価と施術の総合的実習 第19週目 評価と施術の総合的実習 第20週目 評価と施術の総合的実習 第21週目 評価と施術の総合的実習 第22週目 評価と施術の総合的実習 第23週目 評価と施術の総合的実習 第24週目 評価と施術の総合的実習 第25週目 評価と施術の総合的実習 第26週目 評価と施術の総合的実習 第27週目 評価と施術の総合的実習 第28週目 評価と施術の総合的実習 第29週目 評価と施術の総合的実習 第30週目 評価と施術の総合的実習 （授業の方法および自学学習について） ・施術所での実習のため、身だしなみや衛生環境に特に注意すること。 ・やむを得ない場合(公欠事由)を除き、欠席は認められないので注意すること。 提出物は、必ず定められた期間内に提出する事
教科書・参考書等	
成績評価の方法	・実習記録の提出、各指定されたレポートの提出をもって評価する. 減点方式とする. ・出席状況：欠課1につき5点減点、遅刻1につき3点減点とする. ・白衣不着用：3点減点とする. ・実習記録の提出　＊未提出、超過は5点減点、内容の不足や未記入箇所がある場合は都度3点減点とする. ・レポートの提出　＊未提出、超過は5点減点、内容の不足や未記入箇所がある場合は都度3点減点とする. 上記の項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する.
実践的教育に関する経歴等	・柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	臨床実習Ⅳ			授業形態	実技	教員名	渡邊一治		
科目区分	専門分野	単位数	1　単位	時間数	45 時間	期間	通年	30 回	対象学年	3 年生

授業概要	外来患者さんの診察を見学学習する。 診察技能を身につけ、正確な判断評価を導き出せるよう実習、学習する。
授業の到達目標	診察についての知識・技能を習得する。 後療として大切なことを確認する。 記録として重要なカルテについて知識を深める。
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 診察の目的と意義 第2週目 接遇・診察の手順 第3週目 接遇・診察の手順 第4週目 接遇・診察の手順 第5週目 接遇・診察の手順 第6週目 接遇・診察の手順 第7週目 身体診察 第8週目 身体診察 第9週目 身体診察 第10週目 診察症例実習 第11週目 診察症例実習 第12週目 診察症例実習 第13週目 前期実技試験 第14週目 前期期末試験 第15週目 前期期末試験　解説と解答 第16週目 後療法について 第17週目 診察　informed-consent 第18週目 診察　informed-consent 第19週目 診察　informed-consent 第20週目 診察症例演習 第21週目 診察症例演習 第22週目 診察症例演習 第23週目 診察症例演習 第24週目 後期実技試験 第25週目 後期実技試験 第26週目 施術録について 第27週目 施術録の書き方 第28週目 施術録の書き方 第29週目 後期期末試験 第30週目 後期期末試験　解説と解答 （授業の方法および自学学習について） 1）実習室で外来患者さんの見学実習を行う。 2）白衣上下（必須）、医療人として身嗜み、言葉遣い、装飾類に留意する。 3）的確な診察、正しい判断評価が出来るよう演習を行う。 4）授業終了後は当日の教室当番が清掃し教室へ戻ること。
教科書・参考書等	柔道整復学（理論編・実技偏）・ノートは常備 資料プリント（適時）配布
成績評価の方法	授業態度、出席状況、課題提出、期末試験（前・後期）、実技試験（前・後期）等を 総合的に評価する。
実践的教育に関する経歴等	柔道整復専科教員、認定実技審査員（整復実技、柔道実技）

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	健康増進と介護予防			授業形態	講義	教員名	佐々木　俊尚		
科目区分	選択必修科目	単位数	2　単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	3 年生

授業概要	●介護予防とは何か理解する。 ●介護現場での柔整師の役割を理解する。
授業の到達目標	・日本の高齢化の現状と介護予防の必要性を理解する。 ・柔整師としての介護現場とのかかわり方を理解する。 ・実際に高齢者向けの機能訓練を行うことが出来る。
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 オリエンテーション 第2週目 介護予防とは 第3週目 日本の現状とこれから 第4週目 柔整師としてどのように介護と関わるか 第5週目 機能訓練とは 第6週目 高齢者トレーニングの考え方 第7週目 機能訓練実践① 第8週目 評価項目と評価方法 第9週目 機能訓練評価実践① 第10週目 機能訓練実践②マシントレーニング 第11週目 機能訓練実践③転倒予防 第12週目 機能訓練実践④失禁予防 第13週目 ここまでのまとめ 第14週目 期末試験 第15週目 試験解説 （授業の方法および自学学習について） ・黒板を使用し、板書にて授業を行い、実技も行う。 ・実技の際は本番（現場）同様にしっかりと声を出すこと。 ・実技に関しては各自復習を行うこと。
教科書・参考書等	プリント配布予定。
成績評価の方法	①期末試験の成績（80%） ②出席状況（10%）：すべて出席した場合を10点とし、欠席1回につき2点を減点する ③授業態度（10%）：優10点、良7点、可5点、劣0点で評価する。 上記の項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する。
実践的教育に関する経歴等	①介護予防主任運動指導員資格保持　②介護予防運動指導員講座多数開催実績有

令和　5　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	健康と栄養			授業形態	講義	教員名	岩田　純		
科目区分	選択必修科目	単位数	2　単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	3 年生
授業概要	初めに、エネルギーおよび各栄養素の役割など栄養学の基本的事項について説明する。そして、身体組成と活動量からエネルギー必要量を算出する方法を紹介し、健康維持及び運動時の栄養摂取について具体的な食事例を示しながら説明する。								
授業の到達目標	1)エネルギーおよび各栄養素と健康の関わりについて説明できる。 2)運動時の栄養摂取について説明できる。								
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 オリエンテーション、健康作りの三要素 第2週目 エネルギー源となる糖質・脂質 第3週目 体作りに必要なたんぱく質 第4週目 体の機能を維持するためのビタミン・ミネラル 第5週目 小テストⅠ、身体組成と測定方法 第6週目 エネルギー消費量 第7週目 推定エネルギー消費量 第8週目 小テストⅡ、食事摂取基準 第9週目 日常の食事バランス 第10週目 運動時の栄養摂取 第11週目 体重調節と食事 第12週目 小テストⅢ、体温調節と水分補給 第13週目 まとめ及び確認のテスト 第14週目 期末試験 第15週目 試験解説 (授業の方法および自学学習について) ・教科書および配布資料に沿って、パワーポイントを使用して授業を進める。 ・初めは栄養学の基礎知識に関する説明をし、その後に運動時の栄養摂取を ・3～4つの単元ごとに小テストを実施する。 ・筆記試験の前週には試験範囲と同様の内容で確認のテストを実施する。								
教科書・参考書等	スポーツ・健康栄養学(化学同人)								
成績評価の方法	①小テスト3回分(30%) ②期末試験(70%) ③課題提出(加点対象)								
実践的教育に関する経歴等	①病院栄養士勤務歴5年　②管理栄養士免許　③公認スポーツ栄養士								